

令和3年度 第二回 学校関係者評価委員会

[評価委員]

広島市立戸坂中学校 校長 澤井 様
広島城北中・高等学校 PTA 会長 高見 様
広島城北高等学校同窓 会長 佐伯 様

[学校からの出席者]

松井校長 中川教頭(司会) 大下教頭(記録)
麻野総務部長(記録) 徳丸教務部長 宮本生徒部長 下木進路指導部長
ブランチ国際部長 亀田入試広報部長

① 「学校教育計画」年度末評価に対する質疑応答

Q: 高校入試もそうだが、大学入試も変化する中で、どういった対応・研修をしているのか。

A: ICT、AL、総合学習等の活用で、日常的に視野を広げている。また、大学の先生の生講義を受講できる場を設けている。

A: 授業改善シートを作成し、教員個々で目標をもって授業をするよう取り組んでいる。また、各教科で研修会を実施している。

② 「学校教育計画」年度末評価に対するご意見

○入試において、現状に満足することなく、安定した生徒数確保を期待します。

○中学校段階で留学に行くことは、なかなかできない体験なので、成長へとつながっていくと思う。

○医進コース AL 等で、本物の理科を体験していくと同時に、本質的なことも探究させていければ特に理数は伸ばすことができる。

○JOHOKU PRIDE アンケートを継続することで、学年内・学年間の変化がみられるので、ぜひ継続してほしい。

令和3年度学校関係者評価シート（最終評価）協議結果

令和4年 3月9日

学校名	広島城北中・高等学校	校長名	松井 太	全日制課程
-----	------------	-----	------	-------

評価項目	評価	参考評価項目等
目標、指標、計画の妥当性	B	<input type="checkbox"/> 課題を踏まえた適切な目標等の設定である。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標等の設定には課題の分析が今少し弱い。 <input type="checkbox"/> 課題の分析が不十分であり妥当性に欠ける。 <input type="checkbox"/> 課題と対応の指標等が大きくかけ離れている。
計画の進捗状況に係る評価	A	<input checked="" type="checkbox"/> 計画に基づいた取組が適切に進められている。 <input type="checkbox"/> 計画は進めているが今少し対応が遅い。 <input type="checkbox"/> 計画の種類によって進捗にばらつきがある。 <input type="checkbox"/> 計画はあるが極めて対応が遅く効果的でない。
目標達成の取組に係る評価	B	<input type="checkbox"/> 目標達成に向けて確実に対応が進んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成の取組に今少し具体的対応が欲しい。 <input type="checkbox"/> 目標達成の指標は分掌でばらつきが見られる。 <input type="checkbox"/> 目標達成を設定しているが効果が見られない。
評価結果の分析に係る評価	A	<input checked="" type="checkbox"/> 自己評価としての的確な分析結果である。 <input type="checkbox"/> 自己評価としてやや抽象的な分析が見られる。 <input type="checkbox"/> 自己評価はするものの一方的な分析である。 <input type="checkbox"/> 全く妥当性を欠いた自己評価と分析である。
今後の改善方策の妥当性	A	<input checked="" type="checkbox"/> 改善方策が具体的であり大いに期待できる。 <input type="checkbox"/> 改善方策が分掌によってやや温度差がある。 <input type="checkbox"/> 改善方策として抽象的な対策が多く見られる。 <input type="checkbox"/> 改善方策として抽象的で妥当性を欠いている。
総合評価	A	<input checked="" type="checkbox"/> 教務、進路の「評価指標」で客観性が高まった。 <input type="checkbox"/> 客観性を高めるには今少し具体性が欲しい。 <input type="checkbox"/> 「評価指標」としては説得力に欠ける。 <input type="checkbox"/> 具体性、客観性を担保できる指標が欲しい。

（注）評価：「A適切」「Bほぼ適切」「Cやや適切さに欠ける」「D不適切」

1 建学の精神

英才教育の徹底
道徳教育の徹底
錬身教育の徹底

日本のみならず海外をも視野に入れた大学進学をめざす中高一貫教育の推進
個性が豊かで、自分や人を大切にする姿勢を持つ良識ある青少年の育成
質実剛健にして、心身ともに豊かさを自ら育もうとする青少年の育成

2 校訓

「学んで厭かず、教えて倦まず」

3 ミッション

グローバル・マインドを持ち、21世紀のリーダーとして国際社会の平和と発展に寄与する人材を育成する。

4 ビジョン（使命の追及を通じて実現しようとする自校の将来像）

- | | |
|---|--------------|
| ① 進学校として特色ある教育活動（医進・特進・国際・探究活動等）が広く認知され、安定した入学者が確保されている。特色ある進学校 | |
| ② すべての教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた城北生としてのプライドが育っている。 | プライド・リーダーシップ |
| ③ 社会の多様性を理解し、平和で持続可能な社会の実現に向けて自発的に取り組む生徒が育っている。 | 持続可能性・国際理解 |
| ④ 「6年制」「3年制」それぞれが強みを発揮し、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導が成果を挙げている。 | 系統的・計画的指導 |
| ⑤ 「習得・活用・探究」のサイクルを意図した指導の下、「主体的・対話的で深い学び」が実現されている。 | 探究的学び |

5 今年度の教育目標

- | | |
|---|---------------|
| ① 本校のあらゆる教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。 | プライド・リーダーシップ |
| ② 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、平和で持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。 | 持続可能性・国際理解 |
| ③ 「6年制」「3年制」それぞれの強みを見極め、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導を構築する。 | 系統的・計画的指導 |
| ④ 医進コース・特進クラス及び新しい探究活動等のために、時代の変化に対応した教育内容の開発と校内の指導体制を構築する。 | 特色ある進学校・探究的学び |

6 教育目標・活動策定に係る環境分析

(1) 本校を取り巻く状況と課題

学校の内部環境	学校の外部環境
<p>強み (S)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事に積極的に参加する生徒が多い。 ② 学業と部活動の両立を図り、未来を切り開く生徒が多い。 ③ 生徒の持つ学力を細かく分析し指導することで、多くの生徒の学力が伸びる可能性を秘めている。 ④ 外国人教師が5名おり、英語教育をはじめ国際理解教育を推進している。 ⑤ 海外研修プログラムが充実している。 ⑥ 教育施設が充実している。 ⑦ 休校時にICTを使ったオンラインの指導を組織を挙げて行う体制が整っている。 	<p>機会 (O)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 私立中高一貫の男子校として一定の評価がある。 ② 「面倒見の良い学校」として評価がある。 ③ ICT機器を活用した授業実践に、校外から関心を持たれている。 ④ PTA・同窓会などが協力的である。 ⑤ 連携に協力的な大学・企業がある。 ⑥ 英語運用能力への関心が高まっている。 ⑦ 学習指導要領の改訂と並行して、探究活動を発信する機運が高まっている。 ⑧ 医学科進学コースの初年度を取組に注目が集まっている。
<p>弱み (W)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中高一貫教育の強みをさらに発揮する必要がある。 ② 学習習慣の定着が課題となる生徒がいる。 ③ 中学校の志願者が減少傾向にあり、歩留まり率が低い。 ④ 高等学校の志願者数が伸び悩んでいる。 ⑤ 組織的・計画的な教科教育力の向上に向けた取り組みがさらに必要である。 ⑥ 立地条件が悪く通学に抵抗感を持たれる傾向がある。また学校選択先として市内中心部への指向は根強い。 	<p>脅威 (T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 少子化による受験人口の減少 ② 近隣の学校の共学化や特色ある取組により生徒の志望動向に大きな変化がみられる。 ③ 特定の公立学校の人気の高さ ④ 広島市内中学での高校入試における本校の認知度の伸び悩み ⑤ 校外での生徒のマナーについて指摘を受けることがある。 ⑥ 新型コロナ感染拡大により、休校措置や行事の中止等への懸念が払しょくされていない。特に強みの海外研修が十分実施できない。

7 目標：年度末評価時には次のような評価基準で評価する。

目標達成についての評価 A:目標を超えた B:おおむね目標に届いた C:目標に近づきつつある D:幾分進展がみられる E:取組みが滞っている。

1 本校のあらゆる教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北プライド」を育む。							
達成目標	評価指標	実績値	目標値	実績値と評価		理由・コメント	担当
		2年	3年度				
志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。	進路実現とそのため学習において高い目標を設定し具体的に行動ができているか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+Bの割合	なし	50%	① 37.8%	② 50.7%	B 一学期末と3学期のデータを比較した。特に進路実現と学習について高校生は肯定的自己評価が高まっている。一方中学生の数値が伸び悩んでいることが懸念材料である。	総務部 学年会
	部活・習い事など校内外の自主的な活動において高い目標を設定し具体的に行動ができているか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+Bの割合	なし	50%	① 50.3%	② 49.0%		
他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。	校内外において自発的に貢献する行動がとれたか？ 自己評価が高い順A～Eのうち A+Bの割合	なし	50%	① 55.7%	② 65.9%	A 全校で「貢献」への意識は高まっている。さらに日常の行動や進路意識の育成につながることを望まれる。	
「学んで厭わず、教えて倦まず」の校訓の精神を实践する生徒を育てる	・数値目標は設定せず。						

2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。									
達成目標	評価指標		実績値	目標値	実績値と評価		理由・コメント	担当	
			2年度	3年度					
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に異文化に触れ、コミュニケーションが図れる生徒を育む。	海外短期研修の応募者数	オーストラリア	中止	中止	—		COVID 19 のため、国際部の活動はほとんどなかった。そのため、国際事情に目を向けさせることは困難だった。COVID19 の感染状況改善に伴い、海外プログラムや国際交流を再開するのに最適な時期を常に検討している。 GTEC スコアに関しては、目標を達成できなかった理由を現在英語科で分析中。 その他 オーストラリアのプリズベンにある新しい提携校との交渉が進行中。プログラムは令和5年に開始することを目指す。 中学3年生希望者対象学期留学プログラムは、計画の初期段階にある。	国際部	
		イギリス	中止	中止	—				
		韓国	中止	中止	—				
		インドネシア	中止	中止	—				
	Year 留学・Term 留学		—	—	—				
	受入プログラムのホストファミリー		中止	中止	—				
	中学インターナショナルフレンドシップキャンプ		中止	中止	—				
	生徒の興味を示す数値	外部のイベント（スピーチコンテスト等）		2人	—	28人			A
		インターナショナルクラブ加入者数（短期研修参加者含む）		2人	10人	10人			A
		韓国語講座参加者数		36人	25人	19人			C
		NEWSLETTER 編集に関わる生徒数		19人	15人	13人			B
		提携校オンラインサミット（検討中）		12人	20人	—			E
	GTEC（実績値は改定前の総点による）	高2GTEC（アドバンス 3技能）960点 スコア 672以上	—	全学年 50%	32人（16%）	D			
		高1GTEC（ベーシック 3技能）810点 スコア 567以上	—	全学年 50%	51人（24%）	D			
上記に加えて国際部の活動を示す数値	ゲストスピーカー講演会	中2Discovery	—	—	—				
		中2・3全学年	—	—	—				
	国際関係 LHR（中1・1回、中2・2回、中3・1回）		—	—	—				
	NEWSLETTER（情報雑誌）発行		3回	3回	2回	C			

		PTA新聞に掲載する国際部関連記事		1記事	—			
		デジタルサイネージコンテンツの更新	139	毎週	187	A		
		広島インターナショナルスクールとの交流	—	—	—			
	来訪の海外生徒 との交流行事	中2Discoveryの授業	—	—	—			
		全校歓迎集会	—	—	—			
		体育祭・文化祭	—	—	—			

3 中高一貫教育の強みを発揮し、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。								
達成目標	評価指標		実績値	目標値	実績値と評価	理由・コメント	担当	
			2年度	3年度				
① 基本的な生活習慣を確立する	目標の性質上数値による評価指標は設定しない						生徒部	
② 生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指す。 ③ 生徒自らが、他者を思いやり、地域に愛される学校となるべく、生徒会が中心となり城北モラルを向上させる。	地域のボランティア活動への参加		2	4	4	B	コロナで、すべての活動を行うことはできなかったが、芸備線利用促進のたる募金に参加するなどの活動はできた。 来年度は、中高合同の体育祭を予定している。	
	登下校時マナーアップへの呼びかけ		4	5	4			
	先進的な他校生徒会執行部との交流		3	4	3			
	中高合同で行う校内行事の検討		2	3	3			
	高校生による中学生への意識啓発活動		2	3	2			
④ 系統立てた学びにより、学習意欲等が高まっている。 ⑤ 年間授業時数が確保できている。	生徒の授業満足度		83%	80%	84%	B	生徒の授業満足度は授業評価アンケートから算出した。シラバスは教科担任が年度初めの授業時に配布して年間計画の説明を行った。	
	シラバス作成の進捗管理		60%	100%	90%			
	年間授業時数(1単位当たり)		35時間	35時間	35時間			
⑥ 基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。	家庭学習時間(トータルとして)	中1	平日	1.1時間	2.0時間	3.0	B	実績値は、中1～高2は2月、高3は11月の調査結果である。
			休日	2.5時間	3.0時間	3.3		
		中2	平日	1.3時間	2.0時間	2.2		
			休日	2.1時間	3.0時間	3.3		
		中3	平日	1.2時間	2.0時間	1.8		
			休日	2.1時間	3.0時間	2.1		
		高1	平日	1.6時間	2.5時間	1.6		
			休日	2.2時間	3.5時間	2.7		
		高2	平日	2.2時間	3.0時間	3.0		
			休日	3.0時間	4.0時間	4.2		
高3	平日	2.6時間	5.0時間	5.5				

			休日	6.7時間	7.0時間	6.8			
⑦ 模試目標偏差値を達成する。	全統模試第3回(高1・11月) *昨年実施せず。 ()は進研模試結果で参考値	偏差値70以上		(6)	10人	1人	C	今年度より高1の模試を全統模試に変更したため、前年との比較は難しい。来年度以降の推移を見たい。 模試の難易度が従来の進研模試より上がっているため、学力差が大きく出ている。	進路指導部
		偏差値60以上		(54)	55人	14人			
	進研模試11月(高2・11月)	偏差値70以上		12	15人	7人			
		偏差値60以上		41	55人	44人			
⑧ 旧帝大等の難関大10名、広島大20名、早慶上理30名、関関同立100名以上が合格する。	大学合格者数	旧帝大クラス		13	10人	8人	C	高2については最上位層の生徒の減少がみられるが、偏差値60以上についてはほぼ例年並み。 ただし、目標値クリアには至らず。 大学受験結果は目標に届かず、課題が残った。	
		広大		16	18人	12人			
		早慶上理		29	25人	20人			
		関関同立		97	100人	84人			

4 時代の変化に対応した、教育内容の開発と校内体制の構築を図る。								
達成目標	評価指標		実績値	目標値	実績値と評価		理由・コメント	担当部等
			2年度	3年度				
① 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器の活用を含めた特色ある授業実践に取り組む。	「授業改善シート」の提出		45%	80%	90%	B	令和3年度に改定した教育課程を元に新課程である令和4年度の教育課程を作成した。	教務部
② 新学習指導要領に対応した教育課程を作成する。	工程表をもとにした進捗管理		90%	新教育課程を作成する(6月末)	6月末に作成した。	B		
③ 城北の魅力を、機会をとらえて積極的に情報発信する。 学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。			6年制コース	607 (入学者169)	620人	644 (178)	B	入試広報部
			3年制コース	104 (入学者55)	190人(入学者80)	158 (65+未定)		
④ 医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。	受験者層への興味・関心の喚起(受験者数等)		医進コース	入学者8人	入学者20人	入学者8人 受験26人 推薦4人 4教科22人	C	医進コース担当者
			FLIP	参加者数	参加数20人	SDGs 11人 プログラミング6人	B	
							未来技術推進協会や広島県観光連盟との連携による活動を進め、次年度に引き継ぐ。 生徒主体で課題を設定し、プログラミング学習を進めた。	探究活動企画委員会

<p>⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策を推進する。</p>	<p>数値による評価指標は設定しない。取組状況報告</p>	<p>日常生活においては消毒液の設置、昼食時の黙食を励行した。 式典、説明会等はできる限り密を避ける形（オンラインでの実施等）で行った。 罹患対応フローを作成し、そのフローに従って濃厚接触者（の候補）の特定をし、状況に応じて対応した。学級閉鎖は1件(中1)。</p>	<p>総務部</p>
--------------------------------	-------------------------------	---	------------